



Sponsored by: Red Hat

Authors:Mary Johnston Turner
Harsh Singh

June 2019

ビジネス価値の概要**498%**

5年間ROI

5か月

投資回収期間

113万ドル1年当たりの
新規増加収益額**68%**ITインフラストラクチャ
管理チームの生産性向上**68%**新規ストレージリソース
導入の迅速化**41%**アプリケーション環境管理
チームの効率改善**135%**年間に開発される
アプリケーション数の増加**25%**ITセキュリティチームの
効率改善**53%**

計画外ダウンタイムの削減

ITアジリティ向上と 市場投入時間の短縮を実現する Red Hat Ansible Automation

エグゼクティブサマリー

IDCは、Red Hat Ansible Automationを活用して自社IT環境全般に渡る運用と構成管理の標準化および自動化を進める組織が、その取り組みによって獲得した価値とベネフィットを確認する調査を実施した。IDCは複数の意思決定者に対し、Red Hat Ansible Automationの使用状況についてインタビューを行った。これらの組織が、Ansible Automationが持つIT自動化のためのプログラミング可能なソフトウェア駆動型アプローチによって、生産性、アジリティおよび運用において顕著なベネフィットを実現したことが調査によって明らかになった。Ansible Automationのユーザーは、ITやDevOpsのアジリティの向上、標準化やコンプライアンスの改善、およびインフラストラクチャやクラウドリソースに関するコストの適切な管理について述べている。

インタビューを受けたAnsible Automationのすべてのユーザー企業は、サポートやテスト、トレーニングサービスを提供するレッドハットのサブスクリプションサービスを利用している。IDCは、これらのRed Hat Ansible Automationのユーザーが1組織当たりで年間117万ドルの正味現在価値を得たと算出している。実現した主なビジネス価値は以下の通りである。

- ▶ 構成管理に関する多岐に及ぶタスクやIT運用プロセスを標準化および自動化することで、さまざまなインフラストラクチャチーム全体に渡ってIT運用の生産性が向上
- ▶ コンピューター、ネットワーキング、ストレージインフラストラクチャの各リソースの新規導入を迅速化
- ▶ アプリケーションライフサイクル管理の効率性と安全性の向上
- ▶ 市場投入時間を短縮するための完全に自動化されたCI/CDツール群の活用によって、アプリケーション開発と展開の規模拡大とスピードアップを実現
- ▶ 計画外ダウンタイムの削減によって、アプリケーションのパフォーマンスと可用性を向上